

I 自己評価

1 学校教育目標	社会的・職業的自立に向けた基礎となる資質や能力を培い、知・徳・体の調和のとれた心豊かな地域社会人を育成します。		
2 スクール・ポリシー	『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP)	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP)	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己の適性を理解し、自らの将来をデザインし、自己実現に向けて自発的に行動できる生徒</li> <li>多様な人々と協調性をもって豊かな人間関係を築き、他者と協力して課題解決に取り組める生徒</li> <li>地域との関わりを大切にし、地域の課題を発見し、地域の持続的な発展に貢献できる生徒</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒一人一人の個性や能力を开花させ、将来の進路目標を実現するためのカリキュラムの編成とICT活用などによる分かりやすく個に応じた指導の実施</li> <li>「探究的な学び」や教科学習、対話的な学びによる、コミュニケーション能力と自己表現力の育成</li> <li>長く広い視野で自分の住む地域のことを考える心を育む教育活動の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習活動、部活動、生徒会活動などを通じて、自らの可能性に挑戦したい生徒</li> <li>人との関わりやつながりを大切にし、仲間と協力しながら主体的に学びたい生徒</li> <li>地域活動やボランティア活動などに主体的に参加し、地域社会で活躍したいという意欲のある生徒</li> </ul>

3 評価する領域・分野	◇教育課程・学習指導	
4 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>「熱心に学習指導・生徒指導などに取り組んでいる先生が多い」96%、「専門的知識が豊富であり、授業内容について信頼できる先生が多い」94%、「授業の教え方や説明がわかりやすい先生が多い」90%と、教員の学習指導に対する生徒の評価が非常に高い状態が3年続いている。</li> <li>「本校では、ICTを活用した学習活動や協働的な学びの機会、オンライン等での学習支援などがあり、それが学習の理解につながっている」が79%であるが、対話型・双方向性のあるICT学習支援ツールの活用はそれほど進んでいない。</li> </ul>	
5 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 新学習指導要領に対応した教科教育及び教育課程の実践。</li> <li>◇ 観点別評価方法の確立と妥当性の向上。</li> <li>◇ ICT機器等の活用による分かりやすく個に応じた指導実践</li> </ul>	
6 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラム委員会だけでなく教科会なども活用して幅広く意見を求め、検討する。</li> <li>・県のICT教育企画係の助言をもとに、本校職員研修担当者、情報化推進担当者と協力しながらICT活用等を推進する。</li> </ul>	
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 教育課程委員会、各教科会などの実施。</li> <li>(2) ICT、オンライン授業等に関する研修会や授業公開週間などの実施。他校での先進的な取組の視察。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 新学習指導要領に対応した教科教育の実践状況及び観点別評価方法の確立状況。</li> <li>(2) 授業におけるICT機器の活用状況。</li> </ul>	
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>各教科会等を実施し、新学習指導要領への対応状況と観点別評価方法の確認を今年度も繰り返し行った。</li> <li>ICT活用に関する研修会や情報提供を行い、ICT活用に重点を置いた授業研究週間を実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 新学習指導要領対応の観点別評価ができたか。</li> <li>② 双方向性のあるICT学習支援ツールの活用を促進することができたか。</li> </ul>	<p>A (B) C D</p> <p>A B (C) D</p>

12 成 果 ・ 課 題	<p>○新学習指導要領に対応した教科教育の実践と本校生徒の状況に応じた観点別評価の妥当性を高めることができた。</p> <p>▲多くの授業でICT機器が活用されているが、インタラクティブ（対話型・双方向性）なICTの活用においては、職員の実施率は低い。</p>	<p>総 合 評 価</p> <p>A (B) C D</p>
<p>13 来年度に向けての改善方策案</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き新学習指導要領に対応した教科教育の実践と評価を繰り返し行う。</li> <li>・インタラクティブという視点を意識しながら、本校の生徒に合う分かりやすく個に応じた指導のためのICT機器活用方法を模索する。</li> </ul>		

## II 学校関係者評価

実施年月日：令和6年1月24日

### 【意見・要望・評価等】

- ・教員の学習指導に対する生徒の評価が非常に高い状態が続いており、高く評価できる。
- ・ICT機器の活用については、集めた情報をどう使うかが重要。講義方式の方が良い場合もあるので使い分けが必要だ。
- ・学年が進むにつれて、発表内容が濃くなっており、教育の成果が感じられる。
- ・新科目である「企業実習」、「企業実習基礎」はとても良い内容である。従来からあった学校設定科目「郷土芸能」、「観光資源研究」等の科目も年々内容が充実してきており、高く評価できる。